地質ニュース

昭和58年11月　第351号　1983

反射法の震源—特にミニソシーの原理について—……横倉隆伸・加野直巳…6

第四紀地質・堆積学に関する海外研修に参加して……磯部一洋…14

中国史にみる水銀鉱……岸本文男…27

マヤ文明とヒスイ……竹田英夫…36

経済地理メモ—社会主義国編—⑩ベトナム……資料情報係…46

中国の鉱物資源⑤
—鉛・亜鉛鉱業と火山性鉛・亜鉛鉱床—……古宇田亮一…48

信濃池田　SHINANO-IKEDA……加藤碩一・佐藤岱生…62

口絵　研究学園都市周辺，地質の見どころ（その6）
霞ヶ浦用水筑波1号トンネルの地質
笹田政克・服部仁・正井義郎・河村幸男

編集　地質調査所

表紙の写真

発行　株式会社　実業公報社

初秋の筑波山

（茨城県筑波郡筑波町大貫から昭和58年9月撮影）

筑波山は関東平野へ舌状に突出した形で君臨する八溝山地南端の霊峰である．　向きによっては円錐形の成層火山らしく見えることもあるが頂部は斑れい岩　山麓は斑状黒雲母花崗岩からなる深成岩の山である．写真左端に山体斜面の傾斜変換部が見える．　そこから上方では斑れい岩が分布し　下方では厚い崖錐堆積物が覆っている．　斑れい岩と花崗岩との境界・貫入関係は崖錐堆積物が隠べいしているため　永年論争の種であった．　幸い　最近東部山腹における霞ヶ浦用水筑波1号トンネル掘削中　花崗岩の貫入状況が確認され　この問題に決着が付いた（口絵写真参照）．

山頂部は2峰に分かれ　西側（写真向かって左側　標高870m）の男体山と東側（標高875.9m　三角点）の女体山からなる．　交通至便の今日　山頂までハイヒールで登れるとはいうものの　遠望の自然は古人の歌った風情がそのままで変わっていない．『筑波嶺の峰より落つる男女の川　恋ぞつもりて淵となりぬる』（陽成院）は　上記傾斜変換部あたりの崖淵の滝で激しい水飛沫を浴びながら詠まれたものであろう．

（文　服部　仁　　写真　正井義郎）